

外来化学療法部

■ スタッフ

部長	水野聡朗
副部長	小林哲 問山裕二
看護師	小林やよい
薬剤師（主任）	世古口典子 山田真帆 小田都紀子

■ 診療科の特色・診療対象疾患

1. 外来化学療法部とは

近年、がんに対する薬物療法は、目覚ましい進歩を遂げ、外科手術、放射線治療、内視鏡的治療、IVR 的治療とともに重要な位置を占めています。様々な腫瘍で薬物療法が実施されていますが、その多くが、生活の質（Quality of Life : QOL）の観点から外来治療として実施されています。

このような背景から、2015年5月に開設された新外来棟では、外来化学療法部は治療ユニットを34に増床し、増加する外来治療に適切に対応できるよう体制整備を行いました。

2. 主な診療対象疾患

がん薬物療法を専門とするスタッフ（医師、看護師、薬剤師）のもと、関係する診療科と緊密に連携して治療を行っています。

標準的治療のほか、新規治療開発のための臨床試験、治験なども受け入れております。

主な対象疾患は、治療・領域別に分けますと下記のように分類されます。

- 固形腫瘍（肺癌、乳癌、消化管腫瘍、肝癌、胆道癌、膵癌、婦人科癌、泌尿器癌など）に対する化学療法、分子標的治療、免疫療法
- 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など造血器腫瘍に対する薬物療法
- 小児がんに対する薬物療法
- 炎症性腸疾患・リウマチに対する薬物療法

■ 診療体制と実績

診療体制が整備された2016年以降は、地域がん拠点

病院の一部門として、より高度で専門的な役割を果たせるよう、新たな取り組みを開始しました。

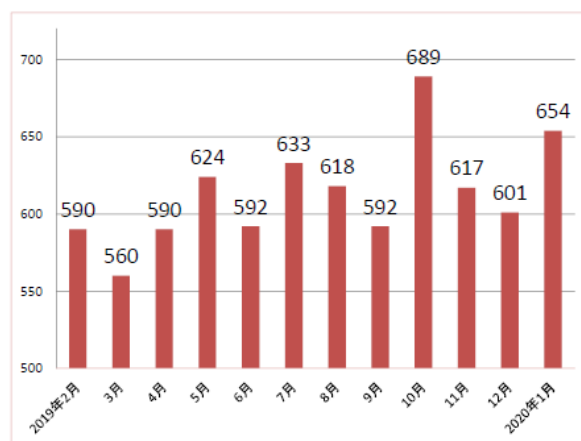
臨床試験・治験の外来治療の体制整備もその一つになります。治験などの治療においては、通常治療と異なり、治療中の厳密なバイタルのモニターや薬物動態の採血を要する場合があります。このような要望に対応するため、治験専用ベット・指示簿等の整備、治験管理センターのスタッフとの連携を強化しています。

2019年4月から2020年1月までの診療実績を以下に提示します。

● 月別の治療実施件数

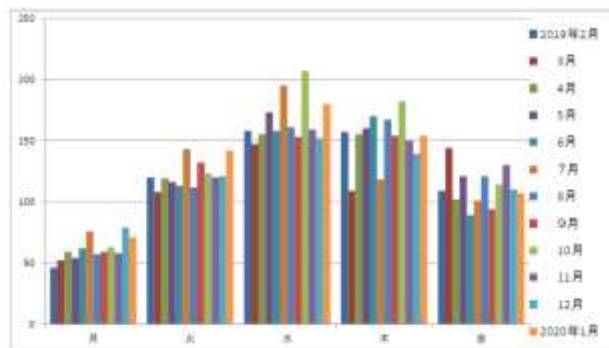
外来治療の増加に伴い、月別の加算件数も増加しております。昨年10月以降は、600件を超える状況が続いております。

(1) 外来化学療法加算月別件数(2019年2月～2020年1月)



● 曜日別実施数

曜日別（下記棒グラフ）で見ますと、水曜日、木曜日の実施件数が多いことがわかります。

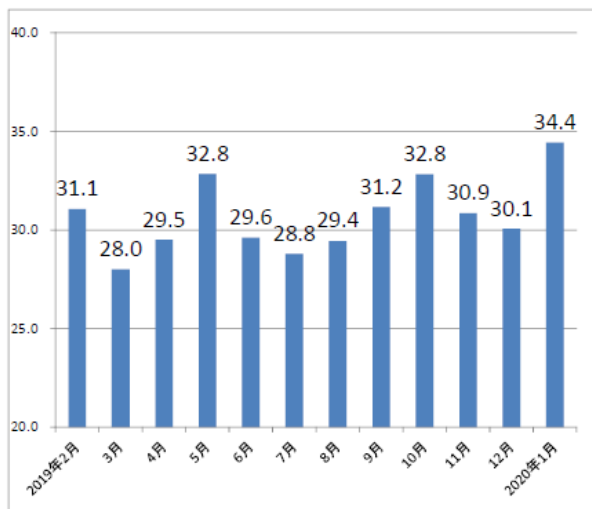


● 1日の平均件数

1日の平均件数も昨年10月以降は、30件を超えた状況が続いています。特に、水曜、木曜日においては、

1日の実施数が60件を超えることもありましたが、安全面から、1日の実施数に制限を設けることも検討しております。

(2) 1日平均月別件数(2019年2月～2020年1月)



● 診療科別の実施件数

診療科別の実施数は大きくは変わっておりません。腫瘍内科、肝胆膵外科、呼吸器内科、消化管外科、消化器内科などの実施が多い状況です。

今後、実施数などをみながら、新たな診療科からの受け入れにつきましても検討しております。

※: 診療科別月別件数(2019年2月～2020年1月)

診療科名	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計	平均					
腫瘍内科	1	18	27	58	5	12	5	6	48	67	2	28	552	74	182	6	2	0	505
呼吸器内科	2	18	27	58	1	16	0	2	28	63	2	18	145	77	87	2	0	2	505
消化管外科	1	21	21	48	2	14	5	2	48	31	1	51	127	68	86	5	0	2	505
消化器内科	2	28	29	56	2	10	0	2	28	87	0	28	182	100	137	3	0	4	505
肝胆膵外科	0	14	29	42	0	0	2	0	34	82	1	28	182	88	86	0	0	0	505
7月	1	18	27	58	5	12	5	6	48	67	2	28	552	74	182	6	2	0	505
8月	2	18	27	58	1	16	0	2	28	63	2	18	145	77	87	2	0	2	505
9月	1	12	22	52	2	12	0	1	27	41	0	42	182	81	184	4	0	1	505
10月	1	17	48	51	5	18	0	2	48	59	0	28	182	93	115	4	0	1	505
11月	1	18	27	41	2	12	0	2	48	50	0	28	182	98	188	0	0	1	511
12月	1	18	27	44	2	12	0	2	21	40	0	28	188	87	132	0	0	0	501
2020年1月	0	14	20	68	4	12	0	0	40	82	0	28	188	88	102	4	0	0	504

作用管理」

第9回 2019年10月29日 テーマ「高齢者」

いずれのセミナーにおいても、医師、看護師、薬剤師、栄養士等の多くの職種が多数(50名前後)参加して行われました。今後も副作用対策をテーマとして、3～4ヶ月毎に開催していく予定です。

・学会活動

2019年度から試験的に導入した経口抗がん薬の外来でのマネージメントの取り組みについて、2019年9月6-7日に青森で開催された第4回日本サポートイブケア学会のポスターセッションにて報告いたしました*。がん薬物療法における経口剤の割合は今後も増加すると予想され、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーを含むチームによるサポート体制の構築は重要と考えています。

*小林やよい他「経口抗がん薬を服用する外来患者のサポート体制構築への取り組み」

PS05-03, 2019年9月7日

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/>(ホームページ)

■ 臨床研究等の実績

・がん薬物療法セミナー

複雑化するがん治療において、副作用管理はこれまでになく重視されています。そこで、支持療法に関する最新の情報を共有し、入院・外来治療のいずれにおいても質の高いケアが提供できるよう外来化学療法部主催(後援:三重大学がんセンター)でがん薬物療法セミナーを昨年度から開始しました。過去のセミナーは下記の通りです。

第7回 2019年2月19日 テーマ「AYA世代のがん医療」

第8回 2019年5月14日 テーマ「免疫療法の副